

The order to read books

「最初の1冊」から
「仕上げの1冊」まで



本には
読む順番が
ある

さいとう たかし
齋藤 孝
Saito Takashi



はじめに

物事にはすべて順番があります。

何かを学ぶにしても、仕事をするにも、順番が大事です。

たとえば勉強であれば、算数で足し算や掛け算を学んで完全にマスターしてから方程式を学ぶでしょう。

どんなに天才と呼ばれる子どもであっても、足し算・掛け算ができない子どもに方程式を解けと言っても無理な話です。

営業の仕事なら、まずは雑用的な簡単な仕事をこなしながら、得意先の人とのつき合い方を学び、だんだんと自分で顧客を開拓し、売り上げをあげることができるようになります。そして、次第に組織をまとめ、管理職となります。

どんなに大学の成績が優秀な新人でも、いきなり課長や部長の仕事ができるわけがありません。

物事にはすべて順番があり、誰もがそれを知って実際にそのように行っています。ところが、こと読書に関しては、なぜかこの真理が忘れられがちです。

読書にもほかのすべてのことと同じく、しかるべき順序、順番があります。

最初に読むべき本、少し慣れてきたら読んでみる本、基礎がしっかりできて余裕ができた上で、最終的に読むべき本……。

ところがこのことを理解せず、最初に誤った1冊を手にしてしまったために、理解できずに挫折してしまう人が少なくありません。あるいは、どんどんおかしな方向に読書を進めてしまう。

順番とは、言い換えると一種の「型」のようなものとも言えます。スポーツや武道では「型」が重視されます。良い選手、一流の選手ほど基礎がしっかりとっていて、「型」を身につけています。

読書も同じように「型」があります。たくさんの本を読破し、しかもそれらの知識がしっかりと身につけている人は、例外なく読書の「型」を身につけています。

本書はその型として「3ステップ読書術」を解説するものです。初心者の読むべき本、中級者の読むべき本、そして上級者が挑戦すべき本の3段階に分け、順を追って本を理解しようというものです。

思想哲学や宗教、歴史や科学の分野の読書、あるいはニーチェやドストエフスキーなど各著者の読書を進める上で、たくさんある本の中からどう選び、どんな順番で読めばいいか？

本書を読んでいただき、皆さんの読書力の向上に少しでも参考になり、役に立つことができれば幸甚です。

齋藤 孝

本には読む順番がある 目次

はじめに 002

第1章

なぜ、「読む順番」が大切なのか？

「読む順番」を間違えていませんか
016

音楽や絵画は順不同でいい
018

本は知能指数で読むものではない
021

筋トレのように次第に重くしていく
023



第2章

最初の1冊をどう選ぶか？

古典はまず「論語」から読む 026

早いうちに「知的免疫」をつける 028

頭の中に「知性の地図」を描く 031

小説は少し読み方が違う 033

クライマックスシーンで本を選ぶ 035

どんな本を選び、どの順番で読むか 037

新書を読書の入り口にする 040

1時間で新書3冊の要旨をつかむ 042



ケインズとハイエクの違いとは？ 045

横断的な知性を身につける 048

詳しい人に聞くのが一番早い 050

レビューを参考にして本を選ぶ 053

3タイプのうちどれかを見極める 056

超難解な『存在と時間』の読み方 059

訳者で本を選ぶ楽しさ 062

「新訳」ならカントも理解できる 064

チャンドラーを村上春樹で読む 067

訳者が変わると不安になる 069

短編から読み始めるとうまくいく 071

ベストセラーはいつ読むべきか？ 073

本との出会いは一期一会 076

思い切って全集を買ってみる 079



第3章

「哲学」から「歴史」、「科学」まで

【ジャンル別】

本物の教養が身につく3ステップ読書術

6つのジャンルを3ステップで読む効果

082

思想・哲学ジャンル

難解で長大な作品が多いので、やさしいものから読み始めたい

084

ステップ1 「最初の1冊」哲学の世界の概略と全体像をつかむ

085

ステップ2 「次の1冊」哲学の真理に近づける本を選ぶ

089

ステップ3 「仕上げの1冊」学者の原典で哲学の真髄に触れる

092



科学・宇宙ジャンル

まずは通俗本で基礎を固めてからエッセイや教科書で知識を深化させる 097

ステップ 1 「最初の1冊」 図鑑や入門書で全体像をつかむ 099

ステップ 2 「次の1冊」 ファインマンのエッセイが読みやすい 103

ステップ 3 「仕上げの1冊」 アメリカの大学の教科書で学ぶ 107

数学ジャンル

数学という知の世界を段階的に体験していく読書の醍醐味 113

ステップ 1 「最初の1冊」 まずは文系でも理解できる入門書から 114

ステップ 2 「次の1冊」 「最終定理」に向き合う数学者たちのドラマ 117

ステップ 3 「仕上げの1冊」 日本人数学者の世紀の大発見に興奮する 123

宗教ジャンル

私たちはどう生きるべきか。宗教を正しく知ることと真理に近づく 129

ステップ 1 「最初の1冊」 世界の宗教の知識を1冊でつかむ 130

ステップ 2 「次の1冊」ブツダや空海の生の声を聞ける本

132

ステップ 3 「仕上げの1冊」世界的な権威、エリアーデの著作で締める

143

歴史ジャンル

歴史は人間を知る最良の教科書。全体から部分へ深めていく

147

ステップ 1 「最初の1冊」高校の教科書や図録でもう一度学ぶ

148

ステップ 2 「次の1冊」断片的な知識ではなく流れでとらえる

150

ステップ 3 「仕上げの1冊」人類の起源、進化を巨編で読む

153

文学ジャンル

文学史、文学の系譜を頭に入れてから個別の作品に進む

159

ステップ 1 「最初の1冊」まずは漫画や入門書で全体像を把握

161

ステップ 2 「次の1冊」文豪の人となりを知ること興味が増す

163

ステップ 3 「仕上げの1冊」世界の文学者を総まとめ

165

第4章

ニーチェから夏目漱石、太宰治まで

【作家別】

本の理解力が上がる3ステップ読書術

作家の著作にも読むべき順番がある

168

ニーチェ

ニーチェの過激さ、凄みは、この順番で読まなければ理解できない

170

ステップ1 「最初の1冊」「神は死んだ」と言った意味を知る

171

ステップ2 「次の1冊」ニーチェの野心と誠実さを知る

174

ステップ3 「仕上げの1冊」『ツアラトウストラ』で真髄にシビれる

176



プラトン

ソクラテスとプラトン。二大哲学者の固い絆と思考がわかる3ステップ 181

ステップ 1 「最初の1冊」師の最期を描いた『ソクラテスの弁明』から 182

ステップ 2 「次の1冊」『饗宴』でソクラテスの会話を堪能する 187

ステップ 3 「仕上げの1冊」『国家』で師・ソクラテスの理想を代弁 189

ドストエフスキー

人間の暗部をえぐり出す手法と姿勢、理解できないのはもったいない 192

ステップ 1 「最初の1冊」処女作『貧しき人々』に込めた思いを知る 193

ステップ 2 「次の1冊」『地下室の手記』で病的な自己愛を描く 197

ステップ 3 「仕上げの1冊」小説の最高峰『カラマーゾフの兄弟』へ 201

ハイデガー

超難解な哲学者の思想を段階を追って読み解いていく 207

ステップ 1 「最初の1冊」『誰にもわかるハイデガー』はわかりやすい 208

- ステップ 2 「次の1冊」ハイデガーの思想の変遷がわかる解説書 210
ステップ 3 「仕上げの1冊」解説書からハイデガーの自著へ 211

夏目漱石

- わずか10年ほどの間に傑作を書きつづけた漱石の正しい読み順 213
ステップ 1 「最初の1冊」遅咲きのデビュー作『吾輩は猫である』から 214
ステップ 2 「次の1冊」前期3部作で近代自我の問題に向き合う 217
ステップ 3 「仕上げの1冊」漱石が三角関係を書きつづけた理由とは？ 220

太宰治

- 明るく、気品に満ちた作品から読み、暗くて重い作品は後で読む 224
ステップ 1 「最初の1冊」ヒューマンイズムあふれる傑作から始める 225
ステップ 2 「次の1冊」一転して、暗くて重い太宰作品へ 230
ステップ 3 「仕上げの1冊」晩年の傑作長編で人間・太宰に迫る 232

第5章

読む順番と同じくらい大切なこと

- アウトプットすることを前提に読む 239
- 要約力と引用力の二つが大切 241
- 声に出しながら読むと覚えやすい 245
- 1年間で100冊読めますか？ 248
- 漱石のように本に直接書き込む 250
- 本を1冊の人格として扱う 252

